

# 令和5年度 校内研修について(案)

令和5年4月18日  
広田中学校研究・研修担当

## 1 令和5年度の研究主題

### プレゼンテーション教育実践

～「表現する力」を育む教育活動の実践にむけて～

## 2 主題設定について

### (ア)生徒の実態

本校の生徒は、比較的落ち着いて学校生活を送ることができる生徒が多い。全国学力調査の質問項目より

質問項目	本校(%)	全国(%)	差(%)
1 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか。	59.6	63.3	3.7
2 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	55.1	67.1	12.0
3 自分の違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	71.1	76.9	5.8

項目1, 2が低いことが、本校が「プレゼンテーション教育」に取り組む主な理由である。特に高校入試や入社試験など多くの場面でプレゼンテーション力が問われる中、項目2が全国より12%低いことは問題となる。

最終的にはプレゼンテーションの目的の1つとなる項目3を次年度の全国学力調査では全国との差を少しでも縮められるようにしたい。

### (イ)学校教育目標及びめざす生徒像から

#### ○学校教育目標

### 我が広田を誇りに思う生徒の育成

#### ○めざす生徒像

- ① 広く英知を求め、学ぶ生徒 (賢く)
- ② 労を惜まず、他者に優しく接する生徒 (優しく)
- ③ 耐える心を持ち、常に前進する生徒 (逞しく)

### (ウ)小中連携の視点から

広田小・中学校の研究主題は「自分らしく表現できる児童・生徒の育成」としている。「表現できる」ために小学校では発達段階に適した研究を行う。中学校では、その成果、まとめとなるように研究をしていく。本年度は共通のテーマで行う1年目のため、経過を見ることはできないが9か年計画で目指す児童・生徒像を実現したい。

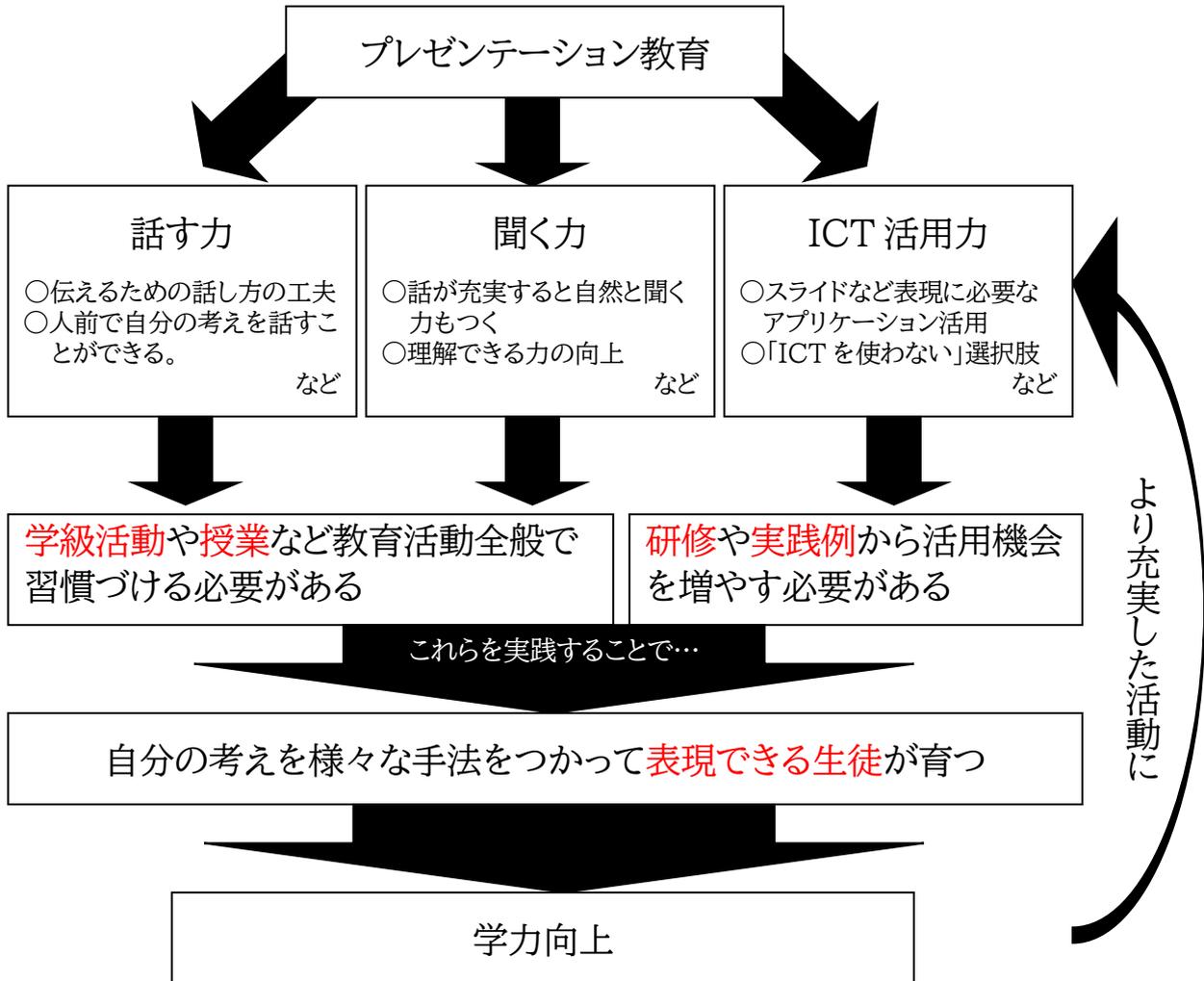
### (エ)「表現できる生徒」の育成のために

- 読む力 (読解力向上～新聞の読み取り～)
- かく力 (令和3年度 校内研修)
- 伝える力 (今年度:プレゼンテーション教育)

### 3 研究仮説

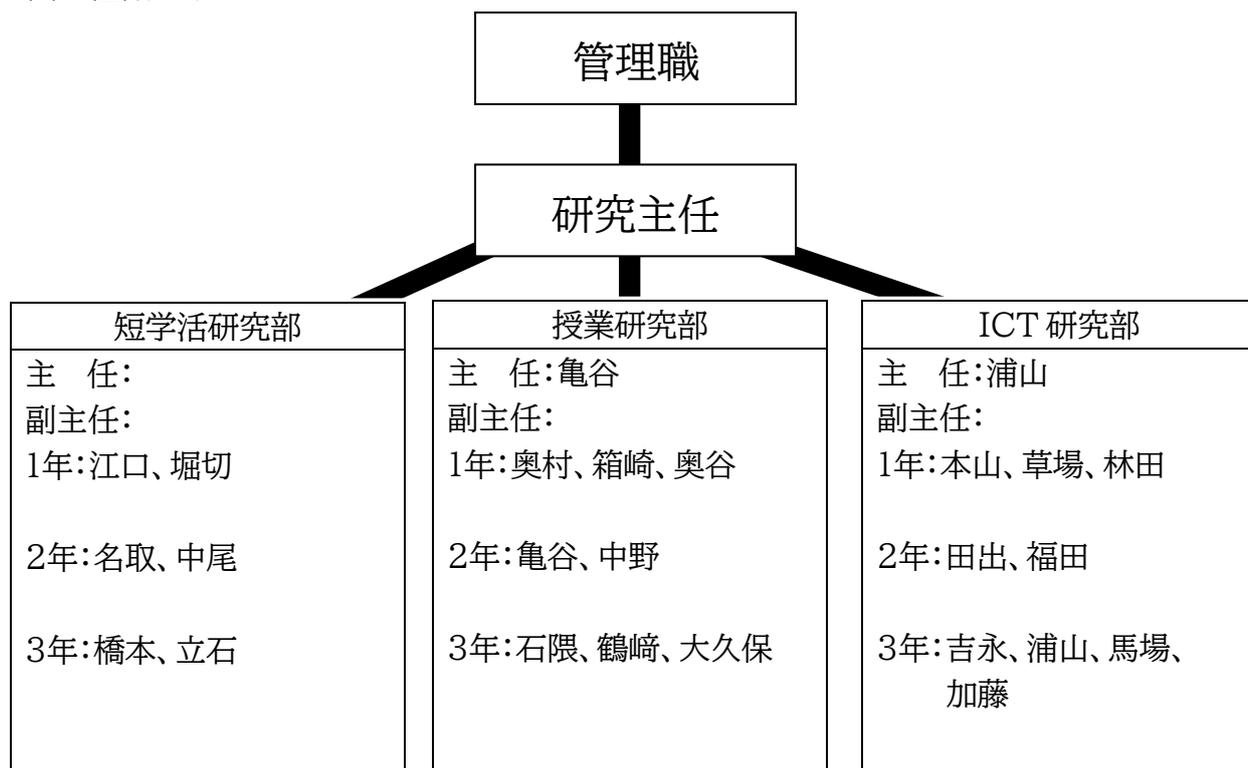
プレゼンテーション教育により「伝える力」を育てれば、自分の考えを表現できる生徒が育ち、学力向上にもつながるだろう。

( 研究のイメージ図 )



#### 4 研究方法

##### (1) 組織づくり



※ 月に1度研究推進部会(研究主任・各部の主任)を行う。

※ 各学年で、できるだけ3つの部会にわかれるように配慮をお願いします。

##### (2) 年間計画(案)

予定時期	校内研修	担当(案)
4月上旬	○校内研修全体計画(案) ○小中連携について ★校内研修 「プレゼンテーションと発表の違いについて」 「プレゼンテーション教育を実践するために必要なこと」 全体による説明 → 各部での話し合い	主任 主任 主任
5月	◇小中連携会議① ○○エビペン研修	養護教諭
7月	○公開授業 「授業中でできるプレゼンテーション教育」	
8月	◇小中連携会議② ○Google for Education 研修 ○プレゼンテーション発表のテーマ決定	主任 (ICT) (学習)
11月	○(文化発表会)プレゼンテーション発表	
12月下旬	○校内研修 「プレゼンテーション発表における反省と今後の見通し」	
1~2月	◇小中連携会議③	

## 5 研究授業計画

授業日	授業者	教科	経年研修	備考
	中尾 沙南		2年目研	
	浦山 大空		3年目研	
	橋本 直樹		3年目研	
	西山 広樹		4年目研	
	亀谷 紗季		6年目研	
	井手 雅裕		7年目研	
	鶴崎 拓也		8年目研	
	平川 由佳		10年目研	※ 育児休業中

※ 授業参観の視点として“伝える力“の実践場面を取り入れる。

※ 同教科の職員が参観及び授業研究会(反省会)への参加ができる環境をつくる。

※ 他学年・他教科の職員もできる限り参観し、互いの実践から学ぶ。

※ 1年間の中で、小・中の授業をそれぞれ1時間以上参観し、互いに学び合う姿勢を持つ。

## 6 検証

① 仮説・検証からの分析

② プレゼンテーション力の効果の分析

※ 今後に向けての課題の提示